

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504542		
法人名	株式会社 ユニマツト		
事業所名	福山ケアセンター そよ風		
所在地	広島県福山市松永町3丁目21-70		
自己評価作成日	平成25年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成25年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の気持ちを受け入れ、体調管理をしっかり行い、一人ひとりのペースを大切に家庭的で笑顔の絶えない日々を送れるよう私たち職員が健康で笑顔を決やさないように気をつけています。
以前はあまり行っていなかった外出、ドライブなどで気分転換を図ったり、施設にこもりきりにならないよう配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年目を迎える福山ケアセンターそよ風は平地の広々とした環境にある。消防署が隣接している事もあり、併設事業所と合同で毎月の火災訓練の実施やはしご車を導入しての訓練など防災に対する意識が高い。利用者は併設のデイサービス、ショートステイと一緒に催し物に参加したり、ボランティアの芸を鑑賞したりして、大勢の利用者と生活の気分転換になる支援を受けている。日頃職員は食事や排せつ時など本人が自分で出来る事は見守り、必要以上の介助は避け、自分で行ってもらうことで一人ひとりの尊厳を大切にしたい支援に繋げている。整容の乱れも無く清潔さが保たれ健康の維持管理も十分に行われている。食への楽しみの支援に月毎の「美食祭り」と称した趣向を凝らした献立や、時には喫茶店でお茶を飲むなど、利用者にとって心豊かな生活が送れるような取り組みを行っている。。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に留まる場所に理念を掲げ意識を高め、またミーティング行い共通認識として理念をとらえ日々の支援に活かしている。	ユニットごとの理念があり各ユニットの壁の目に留まる場所に掲げ職員への意識付けを行っている。職員は理念を大切にケアに反映する取り組みをして現場に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等の時に来訪していただいているが町内会の行事等には参加したり関わることができないでいる。	近隣を散歩する時は挨拶は欠かさない。事業所の記念祭や夏祭りに地域の方に参加して貰い関係強化に努めている。又年1回地域の小学生が訪問し演奏したり利用者と一緒にゲームを楽しんだりして世代を超えた交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し町内会の方々へ少しづつではあるが入居者様の様子などをお伝えし理解を得ることができるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、家族の代表、市の職員、包括、町内会の代表の方々をお招きし忌憚のないご意見を頂いている。またそのご意見をサービス向上に向け活かしている。	2か月に1回行政や包括センターの方の積極的な参加があり、民生委員や地域の方、家族会の参加で大変充実している。社会保障制度改革内容の説明や包括からのお知らせ、家族からは活発な意見も出され有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当の方とは運営推進会議を通し忌憚のない意見などいただいている。	行政への働きかけはケアマネが主に出向き、顔なじみの関係となっている。困難事例の相談や事故の場合の対応の指導にのってもらっている。又感染症対策等の情報提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはマニュアルに則り拘束をしないケアに取り組んでいる。全体会議の時には研修の場を設けている。	職員は併設の介護施設と合同研修会を行い、身体拘束ゼロに向けた取り組みをしている。日頃の声掛けも利用者のそばで言葉使いには細心の注意を払いながら行っている。布団を床に敷いたり、鈴を付けたりして転倒の早期発見に繋がるよう工夫し拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止について十分理解し自他共に虐待が見過ごされる事のないように注意を払いケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ行っていないが学ぶ機会があれば参加し知識を持ち今後活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は管理者もしくは請求担当者が応じ十分な説明を行っている。不安や疑問点に関してもその都度対応説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また面会時には日頃の様子を伝えたり要望を伺い日々の支援や運営に活かしている。月1度日頃の様子を詳細に記録した文書を送付。	家族の意見・要望は運営推進会議で出される事が多く意見が出し易い関係作りが築かれている。事業所訪問時に家族が意見を出し易いよう職員から働きかけている。出された内容は記録に残し共有し、検討の後実践に繋げている。。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議、管理者会議等職員の意見、提案を聞く場を設けている。月1度産業医の訪問があり、職員の心のケアにあたっている。	月1回の全体会議で職員は意見交換し、管理者に日常的に問題点を伝えて、管理者会議にかけて改善に向けている。職員の個人的要望はセンター長に相談し、問題点は中四国エリアマネジャーに伝え、統一したケアになる取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	センター長、管理者、ユニットリーダーは職員の勤務条件の確認と把握、精査しており個々の実績評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会が少なく限られた職員しか参加できていなかったが全体会議の時に研修会を設けることで目標に向けトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は研修があれば行う程度で殆ど取り組みができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様同伴で見学していただきお話を伺う中で安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を十分に伺いその思いを尊重し安心していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事情をしっかりと把握し適切なサービスが受けられるよう介護支援専門員を通し対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態を把握し、持ちうる力の維持に努めている。日々の生活を通し馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	両者の思いを受け止め、又よりよい関係が維持できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達が訪問されたり地域のサロンや美容院に通われたりし入居前と変わらない生活が送れるよう支援に努めている。	送迎付きのふれ合いサロンに参加する利用者が居て大正琴などの演奏を楽しんでいる。馴染みの場所への外出支援も希望に沿っている。理美容は家族が連れて行ったりして地域との関わりを保っている。家の行事には家族が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り会話が成り立つように働きかけたりフロアを自由に往来していただき顔なじみになれるよう関係作りに努めている。また入居者様の力を信じあまり手を出しすぎないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡をいただく事があり関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前までの生活を把握した上でここでの生活がよりよい物になるように希望に沿うように努めている。ご利用者の思いを大切に思い時に傾聴し支援している。	ある程度は一日の流れに沿ってもらうが、無理強いのない生活ができるよう、好みや生活歴を、家族や介護支援専門員から聞いておく。意志疎通が困難な人は常に寄り添い声かけをしているうちに通じるものがあり瞬間をキャッチしケアに向けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や入居に至った経緯などご家族様や介護支援専門員の方より情報を提供いただき把握し支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重度化が進み状態も変わったりするが、ひとりひとりの心身状態などをきっちりと記録に残し職員全体で情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を元にユニット内のミーティングで支援の方法について話し合い、意見を出し合い支援に活かしている。日々の記録を細かく行っている。	月に1回のミーティングで利用者一人ひとりの状態や問題点を提起しケアマネ、管理者、職員が話し合う。モニタリングとアセスメントをし家族からの要望を聞き現状に合った介護計画を作成する。出来たものは家族の同意をもらう仕組みである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りをきちんと行うとともに日々の状態様子を記録に残し情報を共有している。またその情報を計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスやショートステイと合同で行事を行ったり交流を図っている。花見や外出には施設の送迎車を利用し出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元タクシー会社の協力のもと、入居者様一人ひとりで定期受診されたりサロンに通われたり心身の力が発揮できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の委託医の往診がある。またご本人、ご家族の意向に沿った内科、歯科など適切な医療を受けられるように支援している。	利用者希望のかかりつけ医の往診は週1回や2週に1回の方があり其々に適した頻度で受けている。他科及び特に希望の病院への受診は家族対応とし状況により通院支援をしている。歯科・神経内科の往診も行なわれ受診結果は全て関係者で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護師に相談適切な対応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供を行い適切な処置が受けられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全体的に重度化してきている。看取りに協力して下さる委託医に変更し態勢を整えていく予定である。	終末期ケアは家族・かかりつけ医との相談により今後の方針を決め、事業所はできる範囲で対応している。併設事業所の看護師との連携は出来ていて、職員も急変時の対応については理解している。終末期ケアへの家族の要望はあるが体制作りが万全となっていない。	終末期ケアの事業所方針の充実に向け、更なる職員の意識統一を図り、研修の積み重ねをされる事が望ましい。又医療機関との連携を確実なものとするよう事業所側から働き掛けられるよう望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受講し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の消防署の協力、ご指導の下毎月避難訓練を行っている。また所属している自治会へご協力をお願いしている。	併設の事業所との合同で毎月夜間想定や出火場所を想定した火災訓練を行っている。消防署のはしご車を使っての実践さながらの訓練も行っている。運営推進会議での働きかけにより地域からの協力が貰える関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴などを把握した上で現在の心身の状態に合わせた言葉かけや対応をしている。プライバシー研修も全体会議の時に行っている。	食事・トイレ・入浴時に於いて自力で出来ることには必要以上の介助をしないようにしている。利用者の行動に先手を打った対応は避け見守りや声掛けを行い利用者のプライドが保てるケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さまの思いをくみ、それが表現できるように言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れはあるが出来る限りご本人様の思いや希望をかなえられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については地域の美容室にお願いしている。身だしなみやおしゃれに関してはご本人様の思いや希望をご家族にお伝えし持ってきて頂いたり、職員と共に買い物に出かけたりできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会等にはご本人の食べたいものをご用意させていただいたり外食に出かけたりまたご家族様も招待し共に召し上がっていただけるよう支援している。	食事は職員も一緒に食べながら見守りにより極力自力で食べて貰っている。食の楽しみの取り組みとして、月一回「美食祭り」と称し和・洋・中のメニューで工夫した食事を提供したり、誕生日に家族を招き一緒に食事をしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの状態に合った食事や水分を提供している。また摂取量等もきちんと記録し不足時には時間にかかわらずおやつや栄養補助剤等も活用させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行いご自分でできない方には介助を行っている。歯科医の往診もあり衛生士の指導のもとケアを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行いなるべくおむつに頼らずトイレにて排泄して頂けるよう支援している。尿意便意のない方などは声かけ誘導介助を行っている。	食事の工夫等で排便コントロールをしたり、食事後トイレに座って貰う習慣づけをして自然排泄できるよう取り組んでいる。利用者に合わせ時間を見ながら声掛けによるトイレ誘導を行ったり、ポータブルトイレの使用で極力オムツを使わない生活が出来るような支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便、量、形状などを記録し水分量や食事内容に気をつけたり体操等で体を動かしていただいたりし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿えるよう心掛けしている。時間帯はおおよそ決まっているがなるべくご希望に沿えるよう援助している。	入浴は週2～3回午前・午後に分け実施している。身体状況によりデイサービスの機械浴を利用する方もある。毎日入浴する方もあり入浴剤を入れたりして、出来る限り利用者の要望に添った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアで過ごされる方はソファに座りかえていただいたり居室に戻り休んでいただいたり臨機応変に対応している。夜間は室温や照明に気を配り安眠できるように気配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された定期薬、臨薬に関しては薬剤師より説明があり理解している。不明な点などあれば薬剤師または医師、看護師等に相談質問をし理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を手伝って下さったり、歌を聞いたり歌ったり、DVDを観たりされている。ドライブなどで外の空気を吸ったりすることで気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食に出かけている。またご家族様の協力のもと花見に出かけたりしている。ドライブがてら道の駅、喫茶店などに寄ったり利用者さまに喜んでいただけるように援助している。	利用者の希望を取り入れ「道の駅」「境が浜」等へドライブに出掛ける。喫茶店でお茶を飲んだりデイサービスでバイキングを食べる事もある。重度の方も車で外出する事もあり全員が外出の楽しみを味わえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物があれば職員同行の元買い物に行っている。行かれないときには職員に頼まれる利用者さまもおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする場合は側にて見守り必要に応じて支援している。電話をかけられない方は職員が取り次ぎし見守ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を置いたり飾り付けをしたり居心地の良い空間づくりをしている。ゆっくりゆったり過ごしていただけるよう配慮している。	利用者共有の空間は広々として明るく眼下には車や人の動きを見ることができ閉塞感が無い。室内の壁には季節の掲示物が飾られたり観葉植物が置かれている。又利用者が寛ぐのに最適な場所にソファが置かれ、思い思いに過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とは別にソファを置き気の合ったもの同士お話できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や花、愛用の品々を居室に置いて頂きリラックスできるように工夫している。ご利用者さまそれぞれの個性を活かした居室づくりをしている。	居室は清潔に保たれていて、その人の家族の写真や使い慣れた家具が置かれ、自分の部屋として穏やかに過ごせるよう工夫された部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレや浴室などわかりやすく表示している。		